

イヌタマシダ、ホコザキベニシダ、サクライカグマ、ヨゴレイタチシダ、シラネワラビ。

$n=82$ のものツクシイワヘゴ、オオミツデ、オオクジャクシダ（無配生殖）、ワカナシダ（無配生殖）。

$n=123$ のもの（すべて無配生殖）クロミノイタチシダ、コスギイタチシダ、エンシェウベニシダ、アツギノヌカイタチシダマガイ、オオイタチシダ、オワセベニシダ、タカサゴシダ。

$2n=82$ の雑種ヒサツオオクジャク、タニヘゴモドキ。

$2n=123$ の雑種アイノコクマワラビ。

$2n=164$ の雑種ハコネオオクジャク、イワヘゴモドキ、ヤタケイワヘゴ、オオスミイワヘゴ。

以上の結果から、次のようなことがいえる。

1) イワヘゴ亜節において、すでに報告されたイワヘゴの他種、クリシマイワヘゴとツクシオオクジャクの祖先型二倍性種が発見された。

2) イワヘゴ亜節における雑種シダの数種について、その雑種性が細胞学的にも裏付けされた。

3) オンダ節を数亜節に分けることの妥当性は細胞学的にも支持される。

4) コスギイタチシダ ($n=123$, 無配生殖) がミヤマイタチシダ ($n=41$) とナガバノイタチシダ ($n=82$) の交雑によって生じた可能性が細胞学的にも裏付けされたことは、無配生殖性シダの起源を考えるのに示唆に富む。

5) 無配生殖するシダであるオオクジャクシダ、ワカナシダ等が他の種と交雑して雑種をつくりうる可能性があることは、無配生殖性シダが進化の終点でないことを示唆する。

口徳田御稔：生物地理学 28年前に出版された日本生物地理学を、復刻する目的で計画されたものであるが、その内容は著者の研究内容の深まりを反映して、全く異なったものとなっている。ネズミ類の進化を中心としているが、方法論の上から重要な問題を多く含んでおり、植物地理学に関心のある者は一読する必要がある。生物地理学の基礎としては、生きている状態の種を環境との、また系統分類との関連において進めるのが大切であり、近代的の名のもとに提唱された生態地理学は、むしろ近代の名にふさわしくないものであるとしているのは、今後の生物地理学の方角にとって重要な問題を提示している。ただ著者の植物群落は社会構造をもたないという考えかたには疑問をもつ。私は群落は種が生活するために作りだしている基盤であり、異なる種どうしで作られる複合的な社会とみるからである。200頁、築地書館、1969年、980円。

(山崎 敬)